

優しいベッド柵

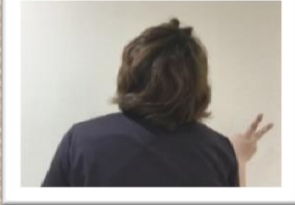
従来のベッド柵カバー



新しい柵カバー



患者さんのなかには、不随意運動により柵で身体を傷つけてしまうことがあります。生地の薄い市販のベッド柵カバーは、ぶつけるとあざや傷ができてしまいます。周りの景色も良く見えませんし、圧迫感があり、風通しも悪く熱がこもってしまいます。そこで、考えたのが 水道管の保護剤をつかってベッド柵を保護する、というもの。患者さんのことを考えて少しでも良い療養環境を整えたいという優しい想いにあふれています。



川田 みなみさん (B2病棟 看護師)



坂本 由実子さん (B2病棟 看護師)

ベッドサイドで患者さんのために色々工夫し熟考している2人が頼もしいです！(B2病棟師長 岡田より)

今月のキラッと事例！

「もうできることはない」とあきらめない・・・

橋詰 こずえさん
(B3病棟 看護師)



90歳代 入退院を繰り返しながら終末期を迎えたAさん。もう耳は聞こえず会話もできません。かろうじて人の表情が分かる程度。家に帰る選択肢はなくなり、病院での看取りとなりました。考えられる限りの治療、看護ケアはしていました。家で過ごすような穏やかな時間を提供したい。何かできることはないか、Aさんは何を望んでいるのだろう、とご家族に相談しました。

家族の願いは

「笑顔を見せてあげてほしい」

でした。

感覚器の機能が弱くなったAさんにとって、スタッフの笑顔は癒しだったのです。笑いかけると微笑みを返すAさん。スタッフの気配を感じられるように、毎日期、夕の2回保湿クリームを使って優しくマッサージを続けることでスキンシップがとれるようにしました。きちんとケアされた肌は亡くなった時でさえしっとりとしていました。きれいな身体でご家族の元へ送り出すことができることは病院でもできる最期のケアの一つです。

患者さんが望みを叶えるため、チームみんなでケアすることを大切にしていきたいです。

私のナラティブ

① 慢性呼吸器疾患のAさん。昔堅気な寡黙な方でした。かたわらにはいつも奥様がにこやかに微笑んでいらつしました。

② 当初は自宅退院も視野に入れていたAさんでしたが、日が経つにつれて病状が進み、食が細くなり酸素療法が始まりました。

③ 楽しみにしていた外出も中止になり、肩を落とすAさん。奥様の誕生日を祝うための外出だったのです。

④ Aさんの思いに寄り添い、思いついでに、奥様へのサプライズ誕生日会。ご家族様にも協力してもらいケーキや飾り付けを準備しました。

⑤ Aさんから奥様へのプレゼントは、これまでの感謝をこぼった直筆の俳句。奥様は嬉しく涙ぐまれました。

⑥ Aさんからもらった言葉は今も私の原動力。患者さんの身近な方の催しても良いことに気づかされ、こんな少しの気付きが必要なんだと実感しました。

俺が77歳、あいつが66歳、ソロ目がそろそろ記念日を祝いたかった。

来年はもう祝うことはできないかもしれない...

うん...

あなた大丈夫？

ありがとう。あんたたちが背中を押してくれたら、こんなことできんかった。

我々の誕生日を祝うために、奥様の誕生日会を開催しました。

HAPPY BIRTHDAY

イラスト：榎田 莉奈

実際の直筆の俳句

実際の病室の飾りつけ

S病棟 師長
松崎 美智子さん